



福山大学  
FUKUYAMA UNIVERSITY

学報

三蔵五訓

真理を探究し、道理を実践する。  
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。  
生命を尊重し、自然を畏敬する。  
個性を伸展し、紐帶性を培う。  
未来を志向し、可能性に挑む。

2013.3.20 Vol. 135



特集

祝 卒業

目次

学位記授与式 学長式辞	1
理事長 挨拶	2
学生表彰	3



ACCREDITED  
2007. 4 ~ 2014. 3



# 強くしなやかに、 そして他者のために

平成24年度 学位記授与式 学長式辞

福山大学 学長 松田 文子

皆さん、ご卒業おめでとうございます。在学中にはたくさんのこと学び、経験し、多くの人間関係を築かれたことだと思います。それらを糧として、社会に出た皆さんが大きく花開かれることを、ここから期待しています。そしてご臨席いただきしておりますご家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。ご家族の皆様の長きにわたる物心両面でのご支援にこれから感謝申し上げます。

さて、皆さんのがこれから出て行く社会は、これまで以上に二つの大きな特徴を持ち、今後ますますその特徴を強めるのではないかと思われます。一つは、世界の様々な所、人、情勢とのつながりの広さと深さです。もう一つは、社会の変化の激しさです。このような時代にあって、さんは今後どのように生きていくべきなのでしょうか。

まず一つ目の世界の様々な所、人、情勢とのつながりの広さと深さです。あなたの就職先の企業が世界展開しておればもちろんのこと、たとえしていなくても、原材料の輸入先はどこでしょう。たとえあなたの就職先が、地方の公共機関であっても、訪れてくる人の国籍はどこでしょう。他国の政治、経済、文化、気候等々の変動は、直ちにあなたの仕事や生活に影響を及ぼします。在学中に短期間でも留学した人は、自分の持っている常識が、必ずしも他の国では通用しないことを痛感したことでしょう。グローバル社会を生き抜くには、自国の歴史と文化に基づくしっかりとした価値観を持ち、かつ他の人もそれぞれの文化と歴史に基づく価値観を持っていることを認めることができます。また大学の学びは、絶対に正しい真理を教えてくれたわけではありません。むしろ大学では、色々な場面で、比較することの大切さを学んだはずです。原因を追及して、解決方法を探ることの大切さも学んだはずです。そして、一つ事にしがみつかない柔軟性を、態度として身につけたはずです。

さて、もう一つは、社会の変化の激しさです。科学技術の進歩一つとっても、世の中の変化は非常に大きく、激しいものがあります。ケータイからインターネットの世界に、あっという間に変わり、人という社会的動物の社会のあり方そのものを揺さぶっています。一個の生物としては決して強くはない人間が、動物進化の頂点に立てたのは、人々が社会を形成したことが大きな要因の一つでしょう。しかしインターネット時代に入って、社会の基盤が根底から変化していくのかもしれません。また、私たち日本人にとって、昨年のもっとも大きな、誇らしいそして明るい希望に満ちたニュースは、京都大学の山中伸弥教授がノーベル医学・生理学賞を受賞したことでしょう。しかし、この成果は様々な難病の治療を近い将来可能にするだけでなく、孫悟空の分身の術を人が手に入れることにもつながるでしょう。科学技術を超えたところで、大きな倫理的問題をはらみ、あなたや私の生命観が問われることになるでしょう。一つ事にしがみつかない柔軟な態度が大切であると先ほど申し上げましたが、同時に、人間について、生きるということについて、毅然とした考えを持たなければ、一時の便利さや利害に流されかねません。3.11の東日本大震災と福島第一原発事故は、私たちの常識を大きく揺さぶりましたが、このような揺さぶりは、これからも様々に形を変えて、あるいは更に震度を大きくして、皆さんを翻弄し続ける可能性があります。

このような時代に、大学を卒業するさんは、いかに生きるべきなのでしょうか。大学教育の成果はどの様に生かされるべきなのでしょうか。一つの価値観に固執していくには、これからのグローバル社会を生きていくことは難しいでしょう。科学技術を無条件に信奉することは危険です。他方で、確固とした人間観、価値観、倫理観を持たずして、この変化の激しい世の中を、人間らしく生きていくのでしょうか。共同体感覚を持たずして、社会の一員としての存在意義、すなわち人間としての存在意義を感じて生きていくことができるのでしょうか。

福山大学の建学以来の教育理念である「人間性を尊重した調和的な全人格陶冶を目指す全人教育」の中で、今さんが大学教育の成果として手にしているものは何でしょうか。それは、自信と希望ではないでしょうか。この自信と希望こそを、さんの心の軸として堅持し、学んだ知識と技能を、自分のためだけでなく、仲間のため、家族のため、地域のため、知らない人々のため、社会のために使っていきましょう。そのことをもってすれば、激変するグローバル社会にあっても、共同体感覚に根ざして自分を見失うことなく、社会に貢献できるはずです。

卒業生のみなさん。福山大学で学んだことを自信と誇りとして、社会に出てたとえ失敗しても、希望を失うことなく、自分の人生の充実とともに他者あるいは社会への貢献を目指してください。心から期待しています。

ではさんのこれからのご活躍をこころから願って、式辞を終わりとします。

平成25年3月20日



# 自信と誇りを持って 新しい社会への挑戦を

学校法人 福山大学 理事長 清水 厚實

本日の佳き日に福山大学平成24年度卒業生のための式典が盛大に挙行されることになり、心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。

卒業生の皆さん、本当に頑張りましたね。本日ご出席の保証人の皆さんも心から卒業を祝福していただいていると思います。また、在学中一人ひとりの学生を大切にし、心血を注いでご指導下さった先生方そして事務職員の皆さんには、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、皆様の在学中には、東日本大震災があったり、iPS細胞の作成に世界で初めて成功し、ノーベル賞をいただいたり、政権が変わったりといった大きな出来事がありました。

東日本大震災については、多くの学生が東北各地の被災地を訪ね、ボランティア活動に積極的に参加され、その献身的活動について、地元の皆様はじめ、多くの方から高い評価をいただき、心から喜ばれました。皆さんはこのボランティア活動を通して、人の心や絆の大切さを学ばれ、一段と人間が大きくなったものと、喜んでおります。

一方、政治、経済の面では、リーマンショックなど「失われた20年」といわれた時期であり、政治では、首相が一年毎に交代したのをはじめ、経済社会問題では、デフレの進行、原発・放射能汚染やエネルギー問題、震災の復興、社会保障と税の一体改革、尖閣・竹島・北方四島などの外交・安全保障問題、定年後の高齢者雇用の法制化や若年労働者の雇用促進など多くの問題があり、その改善、改革が強く求められた時期でもありました。

幸い、内閣が変わり、アベノミクスにより、円安、株高も着実に進み、企業業績も上昇するとともに、さらに金融緩和や財政出動、経済成長戦略の推進などの基本政策が進められることになり、日本の政治、経済についての展望も明るくなりつつあります。

また、教育問題では、秋入学といった新しい問題が提起されました。ご承知のように海外では70%の国が秋入学を採っております。これからは、国際化、グローバル人材の育成という立場から、入学時期を世界に合わせるといった必要も大いにあると思います。しかし、日本の現状では、いきなり春入学を秋入学にするといつても問題が大きいあります。具体的にいいますと、入学した4月から9月までのギャップタームをどうするか、この期間はボランティア活動をしたり、海外への短期留学をしたらどうかなどといいますが、それではその経費はどうするかといった大きな問題があります。また、3月と違う秋卒業の場合、学生の就職や国家試験、資格試験をどうするか、企業の会計年度等との関係をどうするかなど問題がいっぱいあります。

このことについては、国や社会、企業などの支援体制が整わなければ実現できないのではないかと多くの人が懸念を表明されております。

当法人としては、世界の70%近くが秋入学であり、国際化、グローバル人材の育成という大きな観点から現在その研究、検討を積極的に進めているところであります。

また、私学の教育では経営問題が大きく俎上にあがりました。18才人口の激減、長く続いた不況、東日本大震災に伴う放射能汚染や地震の多発などを憂い、外国人留学生が減少したことなどから私立大学の経営は大変厳しくなっています。日本私立学校振興・共済事業団の調査によりますと、いま私立大学は605校ありますが、そのうち学生募集のできなかった大学、通信制だけの大学、大学院だけの大学の合計28校を除いた577校のうち、45.6%の264校が定員の未充足(80%以下)となっております。

学校法人福山大学は、二つの大学を持っておりますが、その平均では80%を越えておりますが、大学別では、福山大学が平均を下まわり、福山平成大学は100%近くとなっております。そこで、平成24年度から、両大学の入試対策室と入試対策委員会の活動を強化するとともに、広報活動にも積極的に力を入れました結果、平成24年度は両大学とも志願者が増えるとともに、平成25年度は、さらに志願者が増え、充足率100%達成に向っています。

また、就職については、就職委員会を中心に両大学の教職員、学生、保証人、卒業生、関係経済団体、商工会議所、ハローワークなどのご協力により、全国平均を大きく上回る90.1%に達しており、面倒見のよい大学として高い評価をいただいております。

ご承知のように日本の学生は、知識力や学力は世界的にみて、非常に高いし、品格もあります。また、企業への忠誠心も他国とは比較にならないほど強い、ただ今までの教育ではコミュニケーション能力とか、表現力プレゼンテーション能力、創造的思考力(クリエイティブシンキング)、想像力(イマジネーション)に欠けているということから、当大学としてはキャリア教育やキャリア形成支援のための教育に力を入れ就職希望者の100%が確実に就職できるよう指導を強化しており、その成果が今年は反映されたものだと考えております。これからも就職希望者は確実に100%就職できるようにするために、就職対策室や委員会を、さらに充実強化し、活発に活動を進めていくことにしています。

いま、東京では東京駅から地下鉄で10分前後の所に西葛西という所があります。そこにはインド人が3万人ちかく住んでおります。そのインド人は、ほとんどがIT関係の技術者で高い技術を持っていることから日本のIT企業がこぞって採用し、事業面で活躍していただいております。そのインド人が日本人に対して言っている言葉があります。1つは、とにかく自信を持って仕事に当ってほしい。2つはあきらめないこと3つは遠慮しないこと。日本人は高い知識と学力を持っているがこの点が欠け、遠慮する人が多いと言っています。卒業生の皆さんには、とにかく仕事に自信を持つこと、何事も任務を達成するまで頑張り絶対に諦めないこと、そして遠慮せず自分の思っていることや考えていることをどんどん率直に発言する人間となって、これから勤める会社、学校団体などに貢献してほしいと思います。皆さんには、それだけの力を充分持っていますから、自信を持ってやってほしいと思います。

「失われた20年」から脱却し、大きく飛躍しようとしている社会に皆さまは足を踏み入れるわけですから、その点では、昨年までと大きく変り、希望を持ち、展望が開けようとしている年に卒業され、就職にあるいは進学にと進むわけですから、大変恵まれているものと考えております。大学で培った高い学力と強い体力、苦労して取得した資格などを有効に活用し、地域や企業等で働く中核的人材として、その力を充分発揮されますよう心よりお願い申し上げ、お祝いの言葉といたします。

平成25年3月20日

## 平成24年度学生表彰者(卒業生・修了生)

### [学長賞]

部門	学部/研究科	学科/専攻	学年	氏名
スポーツ	経済学部	経済学科	4年	堺森 友希
スポーツ	経済学部	経済学科	4年	谷本 和希
社会活動	人間科学研究科	心理臨床学専攻	2年	柿原 未佳子
学業	薬学部	薬学科	6年	田川 慎二

### [奨励賞]

部門	学部/研究科	学科/専攻	学年	氏名
社会活動	人間文化学部	心理学科	4年	西 侑紀
学業	薬学部	薬学科	6年	石井 裕子

受賞者は平成25年3月20日(水)の学位記授与式(卒業式)において表彰を行います。

## 平成24年度学生表彰者(在学生)

### [学長賞]

部門	学部/研究科	学科/専攻	学年	氏名
文化	経済学部	経済学科	3年	李 燕南
スポーツ				学友会サッカーチーム



李 燕南，山本 翔大郎，原田 知樹

### [奨励賞]

部門	学部/研究科	学科/専攻	学年	氏名
スポーツ				学友会硬式野球部
スポーツ	経済学部	経済学科	2年	山本 翔大郎
社会活動	人間文化学部	心理学科	3年	原田 知樹

平成24年度福山大学学生表彰(在学生)表彰式が平成25年1月23日(水)に行われました。

### [学長賞]



経済学部 経済学科 李 燕南



学友会 サッカーチーム 代表者



学友会 サッカーチーム

### [奨励賞]



学友会 硬式野球部 代表者



経済学部  
経済学科  
山本 翔大郎



人間文化学部  
心理学科  
原田 知樹



学友会 硬式野球部

### 編集後記

日本の社会は、「アベノミクス」により少し明るい兆しが見えてきているようですが、東日本大震災の復興状況などを見ると全体としてはまだまだ厳しいようです。今回の学報は、卒業生・修了生のみなさんの社会での活躍を期待しお祈りすると同時に、みなさんには「福山大学」という頼ることのできる母校があるということを忘れないで欲しいという想いを込めて編集しました。

発行 福山大学  
編集 福山大学広報委員会  
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵  
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213